

建材試験 センター会報 5

VOL. 4
N O. 5

No. 5

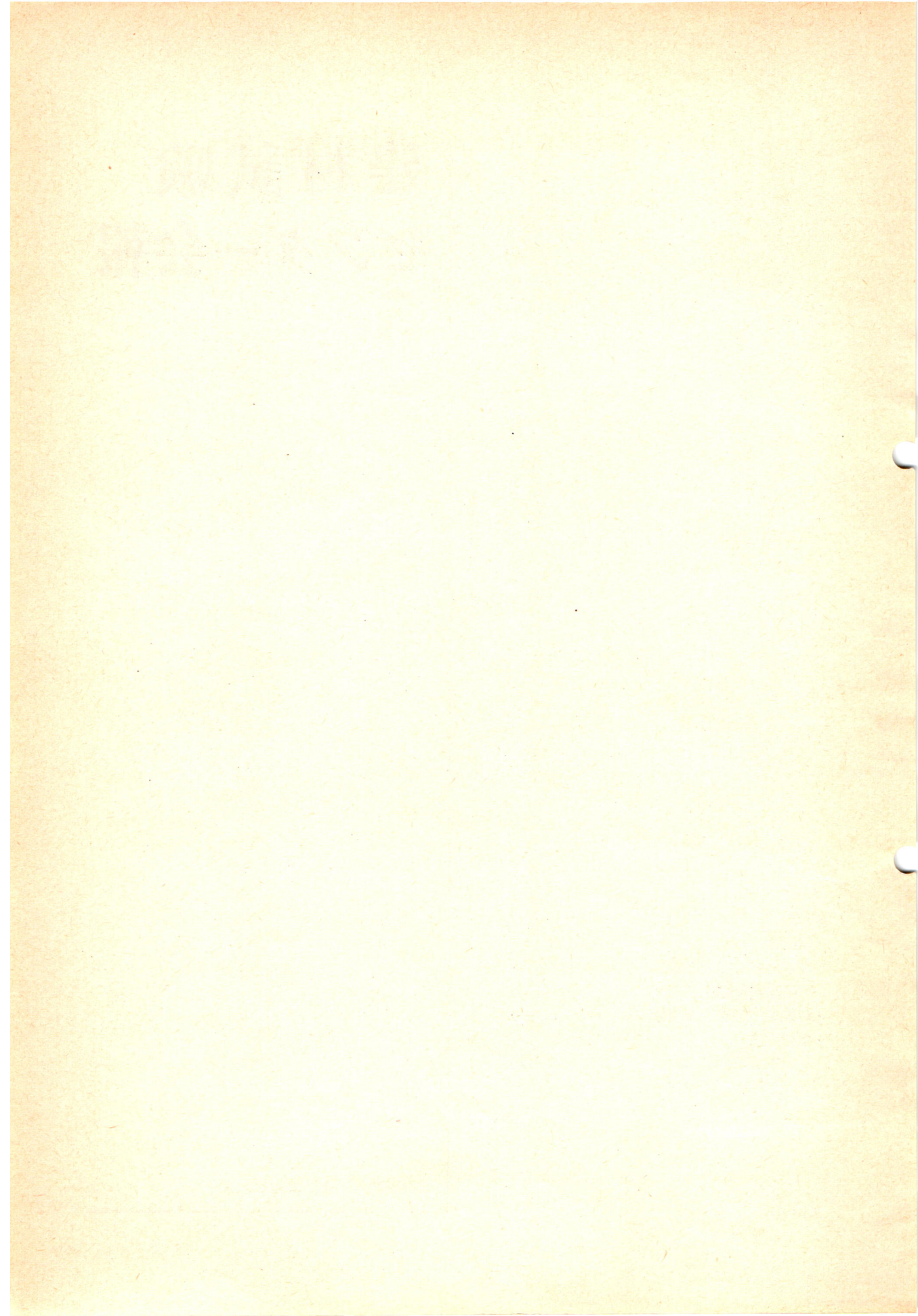
・巻頭言

青年式を迎えた(財)建材試験センター 横山不学
試験の条件 上村克郎

・42年度試験受託に関する総合

・業務報告

1. 受託状況
2. 会合その他の状況





成年式を迎えた(財)建材試験センター

横山 不 学

終戦も間近いころ、戦災で家を焼かれた私は、昭和7年頃に建設されたという江戸川アパートに入居することが出来た。このアパートは戦後のものに比べると一戸当りの床面積もずっと広く、その位置も都心に近く、はなはだ便利なので、ついそのまま居付いて今日に至っている。ここに住みうつった当時は、皆幼なかった住人の子供達が、今は一人前に成人して、正月などに追い羽の相手をしてあげた幼女が、もはやレッキとした大学出の令夫人になっているのなどを見ると、感歎久しくすることがある。ちょうど、それと似たような思いを、この度のセンターの理事会と評議員会(43年3月15日開催)に出席し、また草加の中央試験所を視察してつくづく深くしたのであった。

建材試験センターが昭和38年8月に発足して以来、着々と施設の整備を推し進めると同時に、本来の業務である建材に関する試験・標準化・技術指導・調査研究等の広範な業務を堅実に発展させながら、設立当初樹立された、第一次整備5カ年計画を完遂されたことは、日頃あまりお役に立ち得ないでいる私にとっては大きな驚きであり、また喜びでもあった。センターは今や、その試験業務の遂行に必要な総合した試験所の建設と、すぐれた試験員の充実とを一応終るとともに、財政面でも、43年度予算案が示すように、国庫補助金は0とし、収入の主体を事業収入と若干の民間寄付金におき、さらに43年度事業計画が示しているように、事業の一層の拡大による自立体制強化の姿勢を打ち出している。

今や、センターは成年式を迎えたのであると私は思う。センターはとにもかくにも一本立ちの成年に育ったのである。センターがここまで育ったについては、官・学・民の強力な支持によるものであったことはいうまでもないことだが、またこのセンターの里親である笹森理事長を筆頭とする執行部のご苦労とご健闘にも計り知れないものがあったと思う。このセンターのような構想は戦時中、理事長が当時の内閣技術院の部長時代にすでに夢みておられたと聞く。20有余年を経た現在、成年試験センターの門出を迎えて、もっとも感慨無量の思いを深くされているのは、はかならぬ笹森理事長であろうと思う。

とはいえ、当センターはまだ若く、その前途の可能性は広く、またこれにかける建築界の期待も大きい。きたる4月18日に完成が予定されているわ国最初の本格的超高層三井霞ヶ関ビルにその一端がうかがわれるように、今や建築界にも技術革新が進行しつつある。建築技術の内容はますます高度化し、複雑多岐となるとともに、その社会的責任もいよいよ増大しつつある。従って、これに対応する建材の適正使用の基盤としての、このセンターの活動の拡大による貢献度の上昇こそが急務である。それゆえにこそ、官・学・民のこのセンターに対する支持もいよいよ強力であってほしいものである。また、この意味からも、私は建材業界に比べると未だしと思われる建築業界が、この公的試験機関の存在価値を認識し、その育成のための財的支援をおしめられないことを希望して止まない。

43年度の事業計画の中に「P.R.の一層の積極化」という一項目があげられている。成年式を迎えたこの試験センターは、案外世の中に知られていないのである。筆をおくに当って、建築現場の材料試験依頼数を増やすためのP.R.に対する私なりの思索の1~2を提案したい。もしお役に立つものがあれば幸である。

1) 建築の設計図書には必ず工事仕様書が含まれるが、その工事仕様書は、日本建築学会制定の標準仕様書 JASS と個々の工事に特定な特記仕様書とによって構成される習わしとなっている。国、都、道、府、県または公社・公団等で特定の標準仕様書を作っている場合でも、それ等はすべて JASS に基準をおいている。この JASS の中には「試験」に関する節があり、「材料の試験は、信頼できる試験所に委託する」という一項が入っている。

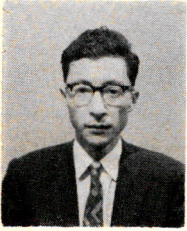
2) 「建材試験センター」こそがもっとも公正で信頼し得る試験所であることを P.R. するポスターと関係文書とを、草加の中央試験所の利用可能な地域内のすべての工事現場の現場小屋に、工事の発足と共に送達し周知させる方法を講じる。

3) 日本建築家協会・日本建築士会等の建築設計監理業務を営む事務所に、P.R. ポスターまたは文書を送付し、特記仕様書中に建材試験センターを指定するよう奨励する。

4) 建築センターの展示室の一隅に P.R. パネルを設置する。

5) 建材試験センターの P.R. ポスターを国電または都営バス内に掲揚する。

<筆者：横山建築構造設計事務所長・東京理科大学非専任教授・工博>



試験の条件—頭・物・金・人・心

上 村 克 郎

(財)建材試験センターの主な業務は、一般からの依頼を受けて試験を実施し、その結果を依頼者に報告することである。試験の内容は建築材料を対象としているから、実に広範囲にわたっている。したがって、いかなる建材の、いかなる性能をも試験することは不可能であるが、比較的頻度の多い材料や試験は一応は処理できるようになってきた。しかし、建材の試験という商売は、形のある物を売るのでなくて、試験の結果であるところの数値・図表・写真などを売るのであるから、買手の信用がないことには絶対に成立しないものである。

信用をうるといことは、形式的な權威の借着では長続きしないし、さりとて真面目な実績の積み重ねは時間がかかるし、なかなかむづかしいものだと思う。さいわい、建材試験センターは過去50年にわたって順調に発展してきているが、今後の堅実な発展のために試験機関というものが、スムーズに運営され、活発な活動を行なうて、世間一般の信用を得るための諸条件の1つを試験の条件という立場で考えてみた。機関全体としてのマネジメント・事務局のあり方・ヒューマンリレーション・試験業務管理などについては、ここでは触れない。もっとも大事な試験を実施するということについて常時考えおくべき事柄を述べてみよう。若輩の筆者がこのようなことを述べることは大変に僭越なことであると思うが、長年建材の試験をやっていて感じたことがらであるから諒とされたい。

建材の試験の実施にとって大事な条件は5つあると思う。それは頭・物・金・人・心である。

「頭」とは、頭脳のことであり、試験を実施できるだけの知識・データのまとめ方・報告書の作り方・結果の検討や考察の能力などである。また、試験を効率よく実施するための方法や運営も含まれている。そこで、この頭がある水準以上に保つためには、研究という分野に首を入れておくことが必要である。また、常時試験技術の向上につとめるための努力も必要である。

「物」とは、機械や器具と考えればよいであろう。いかに頭脳が優秀であろうとも、道具がなければよい試験はできない。最適でかつ最新式で能率のよい物が準備されることが望まれる。そして、物は迅速に入手され、適切に維持管理され、効率よく運転されなければならない。そのためには、機械器具の新設・更新をたえず心がけることが必要である。また、電気・機械などの他の応用工学や、物理・計測などの基礎工学の頭脳も必要になってくる。

「金」とは、一般的には頭脳や機械を入手する金および、試験に消費される材料代・消耗品代などの金と考えてもよい。しかし、試験機関においては、金は依頼者から必要なだけは提供される原則であるから、研究機関の研究費の調達よりは楽である。金と頭と物さえあれば相当なレベルの研究や試験ができる。事実、大学の研究室は、ある程度まではこの3条件がそろっているが、中でも金が一番不足しているところが多いようである。

「人」とは、人数であり組織である。依頼試験を量的に消化し、試験料金で経営するとなると、ある程度のまとまった人員が必要であり、かつ、組織化しなければならない。研究室のように卒論生を使うこともできず、さりとて大切な商売物をアルバイト学生で作ることもできない。試験機関にあっては、限られた期限内に依頼された試験内容をすべて実施しなければならないので、研究の場合よりも、時間的には苦しいことが多い。また、同じことのくりかえしの多いこともある。研究と異なって好き嫌いや得手不得手で試験対象をきめることもできない。したがって、多品種生産の試験工場ともいえよう。生産量をあげるためには人が必要になる。必要にして十分な熟練した技術者と、それらを効率よく動かす組織の確立がなければ、運営は破たんをきたすであろう。

最後の「心」であるが、これは心がまえとでも表現してよいであろう。良い結果を出そうと思って試験したり、いやだいやだと思って試験したりする心がまえなどは、絶対に避けるべきことである。試験データはもっとも客観的で、人間の気分によって左右されないようにも考えられるが、また反面、真面目で、やる気があって、興味をもって実行する試験と、そうでない場合は、結果が反対になることもある。つまり、中立性を固持して信用を得るための精神の持ち方である。試験という仕事は専門化した細部においては、単調なものであるから、マンネリズムに陥り易いし、長い間には毅然たる態度が墮落することにもなりかねない。

以上の頭・物・金・人・心がバランスよく充実することによって、外部からの試験依頼も増加するし、また世間の信用を博することにもなると思う。

<筆者：建設省建築研究所第二部無機材料研究室長・工博>

I 42年度試験受託に関する総合

1. 試験受託件数

創立事務で忙殺された昭和38年度は除外し、昭和39年3月より試験受託件数は次のとおりである。（工事に伴う材料試験件数は除いた。これについては後改めて解説する）。昭和39年度 135件

昭和40年度 208件（前年度比154）

昭和41年度 318件（前年度比153）

昭和42年度 559件（前年度比176）

各年度とも対前年度比で50%以上の増加を示している。発足当初より試験実務に貢献した小菅第1試験場の設備は、昨年11月に草加第2試験場に移転集結し、名称も中央試験所と改め、実質的に総合試験所としての機能を発揮し得る態勢となった。試験の消化能力は大体バランスがとれているので、昭和43年度計画として600件～650件を目標に準備を進めている。

依頼試験手数料は、金額的には1件につき数千円のものから、100万円程度のものまであり、試験期間も短いものでは数日間、長いものでは1年間におよぶものもある。

従業員総数35名中、事務系統を除いて試験所で実際に試験実務にあたっている職員は25名であって、現在1人月平均2件の消化実績を示しているが、実際には試験期間の重複があるために、1人当り常時4～5件の受託試験をもっている。

まとまった依頼試験とは別に、工用材料試験を実

施しているが、表1に示すごとく、昭和40年度は鉄筋83件・コンクリート圧縮58件・その他18件で合計159件、昭和41年度は鉄筋450件・コンクリート圧縮225件・その他59件で、合計734件、昭和42年度は43年3月20日までで、鉄筋833件・コンクリート圧縮494件・その他106件で合計1,433件となっており、いずれも大きな伸びを示している。工用材料試験の受付は急を要する関係から主として中央試験所で行なっているが、本部事務所においても受付を行ない、その日の本部⇔試験所間の定期運行便で中央試験所に運搬して、遅滞なく試験を実施している。試験所はその他に技術指導や調査研究に伴う試験等も行なっているが、これらはその他の件数としてとり上げている。

なお、当建材試験センターの重要業務の1つである標準化に必要なデーターを整えるための試験を行なっているが、これらもその他の件数としてとり上げている。

2. 受託試験の分析

依頼試験・工用材料試験等の月別の件数は前掲表1のとおりであるが、この依頼試験を原材料別に部門別試験項目との対比を示すと表2のようになる。

原材料別にもっとも多いものを見ると、42年度においては家具・建具類で178件（32%）で、内容は耐火庫・アルミニウムサッシ・学校用家具などの、JIS表示制度に伴うものである。モルタル・コンクリートは70件（13%）、紙・布・敷物が60件（11%）、プラスチック類は49件（9%）であった。

表1 昭和41年、42年度の月別試験業務実績（件数）

月別 内容		42年	5	6	7	8	9	10	11	12	43年	1	2	3	合 計		
		4														40年度	41年度
依 頼 試 験		42 (20)	36 (30)	53 (30)	43 (21)	55 (28)	58 (28)	50 (13)	35 (32)	46 (27)	40 (24)	51 (36)	55 (39)		208	318	664
工 事 用 材 料 試 験	鉄 筋 試 験	102 (6)	50 (8)	44 (8)	63 (28)	120 (52)	163 (31)	86 (62)	34 (59)	72 (65)	20 (47)	41 (37)	38 (51)		83	450	833
	コンクリート試験	33 (7)	25 (4)	40 (11)	54 (3)	66 (15)	18 (23)	15 (26)	39 (34)	66 (15)	57 (31)	48 (24)	33 (32)		58	225	494
	セメント試験			1									1 (1)		1	1	2
	骨 材 試 験	2	1	5 (4)	2 (1)	(5)	2 (1)	6 (4)	2 (3)	8	2 (2)	3 (3)	4 (1)		1	24	37
	ブロック試験		(1)			3	1	1				(1)	(2)		1	4	5
	パイプサポート試験				(2)	(1)	(1)		(2)	(2)						8	
	そ の 他	4	7 (1)	2 (1)	6 (1)	10 (1)	2	(7)	2 (3)	7	8	11	8		15	22	67
調 査 ・ 技 術 指 導		6 (2)	2 (6)	4 (5)	4 (8)	3 (5)	11 (5)	2 (3)	5 (8)	2 (3)	4 (4)	5 (3)	4 (3)		11	55	52
合 計		189 (35)	121 (40)	149 (59)	172 (64)	257 (107)	255 (89)	160 (115)	117 (141)	201 (108)	131 (108)	159 (106)	143 (135)		378	1,107	2,054

() 内は41年度

表 2 依 頼 試

No.	材 料 区 分	依頼試験を受けた材料の一般名称	部 門
			力 学
1	木材・繊維質材料	木材, 合板, コルク板, 軟質繊維板, 半硬質繊維板, パーティクルボード, 化粧せっこうボード, せっこうボード, 集成木材, 木毛セメント板	寸法, 見掛比重, 曲げ強度, 摩耗, 接着強度, 圧縮強度
2	石材・造石	安山岩, 人造石, 鉱滓綿, 岩綿保温板	寸法, 見掛比重, 曲げ強度, 摩耗圧縮強度, 硬度
3	粘土製品	タイル, 衛生陶器, 瓦, 耐火材料	寸法, 比重, 付着強度, 不粘着性, 摩耗, 硬度
4	モルタル コンクリート	セメント, 無収縮セメント, 人造軽量骨材, 火山れき軽量骨材, 細骨材, コンクリート碎石, 割栗石, 道路用碎石, AE剤, 分散剤, 急結剤, 防水剤, モルタル混和材, プラスチックス	粒度, 比重, 摩耗, 粒形判定, 実積率, 単位容積重量, すりへり調合, 空気量, スランプ, フロー, プリージング, 圧縮強度, 曲げ強度, 付着, 接着強度, 弾性率, クリープ, 収縮率, 耐風圧
5	セメント コンクリート製品	波形石綿スレート, 軽量ブロック, セラミックブロック, ALC, 気泡コンクリート, 断熱コンクリート, PC板, 石綿セメント管, PC管, パーライト板	比重, 寸法, 圧縮強度, 曲げ強度, 撓み, 衝撃, 面内せん断試験, ふみぬき, 曲げ疲労試験
6	左官材料	せっこう, せっこうプラスター, モルタル混和剤, ヒル石吹付け材料, 防水リシン, パテ	圧縮強度, 曲げ強度, 接着強度, 粘度, 硬度 収縮, 作業性, 密接性
7	ガラス ガラス製品	複層ガラス, ガラスブロック, 着色合せガラス, ガラス球, ガラス綿保温鏡	寸法, 圧縮強度, 接着力試験
8	鉄鋼材料	丸鋼, 異形鉄筋, 間切用棒, 亜鉛メッキ鋼板, 着色鉄板, タイパーフェンス, 鋼製ドラム, パイプサポート, 養生形棒, 鉄板, 浴槽	鉄筋とコンクリートの付着力, 引張強度, 摩耗, 接合部強度, 局部圧縮, 衝撃, 荷重
9	非鉄金属材料	銅板	引張強度, 衝撃
10	金物類	ネジの取付けアンカーボルト	保持力, 繰返し引張
11	家具・建具	書庫, 金庫, 事務机, ロッカー, フアリングキャビネット, 椅子, 敷居, アルミサッシ, 防火戸, スチールサッシ, 学校用家具	寸法, 荷重試験, 引出繰返し試験, 摩耗, 表面滑性, 耐風圧
12	プラスチック 接着材	ポリスチレン, ポリウレタンフォーム, ポリウレタン樹脂, ポリカーボネート樹脂, 発泡ポリエチレン, 強度アロン樹脂, 塩ビパイプ塩ビ板, ナイロンクロス, 樹脂テープ, F.R.Pタイル, 接着材, ゴム, ポリエステル浴槽	寸法, 引張強度, 接着強度, 伸び, 弾性率, 衝撃, ひびわれ, 表面硬度, クリープ, 低温強度ヘン平, 摩耗, 耐風圧
13	床材料	ラバータイル, ビニルタイル, リノリウム, アスベストタイル, アスファルトブロック, 合成樹脂, 木質フローア, ノンスリップ	比重, 寸法安定性, へこみ, 残留くぼみ, 衝撃, 可撓性, そり, 接着強度, すべり
14	塗 料	耐熱塗料, 塗料, 表面処理剤, 防水塗料, 洗剤	作業性隠ぺい力, 乾燥屈曲性, 密着性, 摩耗
15	皮膜防水用材料	ルーフィング, アスファルトコンパンド, 瀝青質目地材, 瀝青質断熱材, タール系材料	比重, 容量, 被覆物重量, 引張強さ, 折り曲げ, 針入度
16	シール材	油性コーキング, チオコール系シール材, 目地棒	作業性, 軟度, スランプ, きれつ, 引張付着収縮復元力, 風水圧
17	紙・布・カーテン 敷 物	塩化ビニルシート, ビニルレザー養生シート, 牛毛ベルト, 研魔ジスク, ヘッジャンクロス, 段ボール	引張, 引裂, 歪, クリープはとめ強さ, 衝撃 接着
18	複合材 (パネル)	木質系, コンクリート系, 軽量鉄筋系, プラスチック系	寸法, 重量, 曲げ強度, 衝撃, 接着局所圧縮 クリープ, 面内せん断, 疲労試験, 耐風圧

験 の 総 合

別 の 試 験 項 目						依頼試験受付件数			
水・湿 気	火	熱	光・空 気	化 学	音	39年度	40年度	41年度	42年度
含水率, 吸水率, そり, 吸湿率	難燃性, 耐火	熱伝導率, 熱膨張		pH 測定	吸 音	8(6)	33(15)	27(8)	12(2)
吸水率, 寸法安定性 そり		比熱, 熱合導率 熱膨張, 加熱試験	電気絶縁性			2(1)	15(7)	5(1)	8(1)
寸法, 安定性, 吸水率 耐水性, 透水, そり	耐火性	耐熱性, 急冷貫入, 凍結融解	耐候性	汚れ, 耐薬品, 耐揮発, インキ		2(1)	10(5)	21(7)	7(1)
吸水量, 保水性, 透水試験, 水密性		熱伝導率, 蒸気養生, 熱膨張, 熱サイクル試験 線膨張率	中性化, 白華, 気密性	耐薬品性, (耐酸, 耐アルカリ) SO ₃ 定量セメント量の分析		35(26)	28(13)	63(24)	70(13)
そり, 吸水, 透水, 含水率	準不燃性試験	耐熱性, 熱伝導率	耐久性	風化防止, 耐薬品性, 防錆	遮 音 性	21(16)	23(11)	19(6)	20(3)
吸湿率, 透水, 保水性		熱伝導率	白華	凝結試験, 安定性	吸 音	14(10)	7(3)	19(6)	5(1)
結露, 耐湿性	防火	熱伝導率	透過率, 耐候性 色度, 褪色	耐アンモニア, 耐ホルマリン	透過損失	7(10)	14(7)	8(3)	7(1)
	防火, 準不燃		褪色性, 耐久性	耐塩水性, ビンホール		3(2)	8(3)	9(3)	9(2)
		熱伝導		腐蝕試験		0(0)	2(1)	2(0)	5(1)
						1(1)	2(1)	1(0)	3(1)
水密性, 沸とう水性	耐火, 防火	熱膨張	気密性	塗膜試験		2(2)	26(13)	46(25)	178(32)
そり, 透水率, 吸水率, 透湿率	燃焼性, 防炎性 難燃性	耐沸煮性, 加熱性, 加熱減量, 耐寒性, 熱伝導率, 熱膨張率	耐候性	凝結試験, 耐薬品性, 耐腐蝕性		27(20)	12(6)	35(12)	49(9)
そり, 透水率, 吸水率	燃焼性	線膨張	耐候性	揮発性, 耐薬品性, 汚染性		2(2)	5(2)	16(6)	36(6)
		耐熱性	耐候性	耐薬品性		1(0)	0(0)	2(0)	10(2)
吸水率		耐熱性, 熱伝導率, 耐寒試験	耐候性	浸透率, 灰分, 四塩化炭可溶分		5(4)	4(2)	8(3)	23(4)
水密性		加熱減量	気密性	硬化率, 耐アルカリ, 耐揮発性		5(4)	6(3)	18(5)	37(7)
吸水試験(方法変化)	難燃性, 防炎性	耐熱性, 熱伝導率, 熱収縮	耐候性	耐アルカリ, 耐酸性, 揮発性		0(0)	6(3)	12(4)	60(11)
そり, 吸湿, 吸水, 透水, 水密性	耐火, 防火	熱伝導率, 熱貫流率, そり, 耐寒	老化	腐蝕性	遮 音	0(0)	7(3)	7(2)	20(3)
合 計						135	208	318	559

() は比率 (%)

Ⅱ 業務報告

(1) 受託試験

(イ) 3 月度の工事用材料を除いた受託件数は 55 件
(依試第1145号～1198号)であった。その内訳内容を

表 3 に示す。

表 3 依 頼 試 験 受 託 状 況

材 料 区 分	材 料 一 般 名 称	試 験 内 容 の 概 要	件数
木材・繊維質材料	パーティクルボード, 木材, 繊維板	摩耗, 含水率, 比重, 含音率, 吸水率, 熱伝導率	3
石材・人造石	砕石, 焼成石	比重, 吸水, ふるい分け, すりへり, 安定性, 圧縮, 曲げ, 衝撃	2
モルタル・コンクリート	AE 剤, 減水剤, AE 減水剤, 人工軽量骨材, 砂, 無収縮セメント	空気量, スランプ, 圧縮, 曲げ, 収縮, 凍結融解, 凝結試験ブリージング, SO ₃ の検出, 汚染, 接着強度, 膨張収縮	10
セメント, コンクリート製品	テラゾータイル	比重, 吸水, 圧縮, 曲げ強度, 引張衝撃試験	1
左 官 材 料	防水リシン, パテ	ふるい分け, 水硬性, 硬度, 付着性, 耐候性, 密着性, 付着性, 衝撃, 耐アルカリ, 耐酸, 肉やせ, きれつ	1
ガラス, ガラス製品	ガラスブロック	圧縮	1
家具・建具	耐火庫, 学校用家具, アルミニウムサッシ	耐火, 繰返し衝撃試験, 水密性, 気密性, 強さ	9
プラスチック・接着材	浴槽	硬度, 溜水時の変形, 衝撃, 引張, 耐熱耐薬	1
床 材 料	塩化ビニールタイル	寸法, 長さ変化, 吸水, すべり, くぼみ, 残留くぼみ, そり, 加熱減量	12
シ ー ル 材 料	油性コーキング	スランプ, 保油性, 硬化率, 収縮, 耐アルカリ	2
皮膜防水用材料	アスファルトルーフィング	引張, 引裂, のび	3
紙・布カーテン・敷物	塩ビシート, 養生シート, 壁紙	透湿率, はとめ強さ, 寸法安定性, 耐水性	6
パ ネ ル	コンクリート系, 鉄骨被覆	耐候性, 耐寒性, 曲げ, 耐風水圧 (水密, 強さ, 気密)	4
合 計			55

(ロ) 3 月度の工事用材料受託試験件数は総数84件で、その内訳を表 4 に示す。

表 4 工事用材料受託状況

試験の内容	受付場所		合計
	中央試験所	本部銀座事務所	
コンクリート、シリンダー圧縮試験	20	13	33
鋼材の引張、曲げ試験	23	15	38
セメント物理試験	0	1	1
骨 材 試 験	2	2	4
そ の 他	8	0	8
合 計	53	31	84

(2) 調査研究、技術相談

3 月度は 4 件であった。

2. 会合その他

(1) 工業標準原案作成関係

○壁用ボード類の接着剤の接着力試験方法

第 8 回ワーキンググループ委員会 3 月 1 日

試験の種類と試験方法、異常条件を考慮した試験の扱い方、被着材料の種類と組合せ方等につき意見を調整し原案を修正した。

第 3 回本委員会 3 月 25 日

原案(その 6)ならびに懸案となった事項の審議を行なった。

○ビニタイル接着材 第 5 回合同小委員会 3 月 14 日

第 6 回 " " 26 日

問題となった圧縮せん断試験、または単軸引張試験のいずれの方法を原案に入れるかにつき、収集資料により検討を行なう。そのほか未決定事項を審議し、原案に修正を加えた。

○構造用軽量コンクリート骨材 (JIS A 5002) 改訂

第 4 回幹事会 3 月 11 日

第 5 案につき全般的に検討を行なった。原案の試験方法については実験をしてチェックすることになり、試験項目として比重・実積率・単位容量・安定性につき、5 カ所で統一の実験をすることを決めた。

○プラスチック製ルーフィング

第 6 回本委員会 3 月 11 日

原案に追加する検査と表示の事項、その他につき審議し、原案作成を完了した。なお表題は「合成高分子ルーフィング」に改めることとした。

○木毛セメント板改訂 (JIS A 5404)

第 2 回小委員会 3 月 27 日

改訂素案の逐条審議を行なった。

(2) 建築生産開発調査研究会

第 22 回委員会 3 月 11 日

図面調査集計の最終的取りまとめと、建築物各部位

別工法の標準的な種類と性能調査の方法につき研究を行なった。

(3) 高速炉用しゃへいコンクリート調査委員会

第 4 回委員会 3 月 4 日

調査実施状況の報告とまとめ方について検討を行なった。

(4) 業務会議 3 回開催

(5) 出版刊行会議、編集会議 2 回開催

(財)建材試験センターを表徴し、特長づける「マーク」と「字体」を設定することにし、在籍者、特に関係のある方々より懸賞募集することが決まった。

(6) 顧問会議 1 回開催
その他

(7) 三木会 (関係新聞社との懇談会) 3 月 21 日

建材試験センター会報 Vol.4 No.5 (5 月号)

財団法人 建材試験センター

本 部：東京都中央区銀座東 6 の 1 通商産業省

銀座東分室内 電話 (541) 4721 (交換)

(542) 2714・2744・2765 (直通)

中央試験所：埼玉県草加市稲荷町字堤外川上 1804 番地
電話 (0489) 2—0051

